

第3回検討会(R5)における意見等と 対応状況・方針

令和6年9月

沖縄県土木建築部八重山土木事務所

議事(1) 第2回検討会(R4)における意見等と対応状況・方針について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	記載資料等
専門家ヒアリングについて	マングローブ専門家へのヒアリングについては、定期的に実施していただきたい。	令和5年度に関しては、追加補植前にヒアリングを実施したほか、令和6年度以降も定期的なヒアリングを予定しています。	参考資料-4

議事(2) 工事中の環境モニタリング調査結果【R4秋～R5春】の報告について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	記載資料等
陸上植物について	ヒルギモドキ及びヒルギダマンをヒルギ類としてまとめて記載しているが、一般的に両種はヒルギ科に属さないので、今後の資料での記載について、検討していただきたい。	ヒルギ科の3種にご指摘の2種を加え、「ヒルギ類等」と記載します。	資料-2 p4、p9～11
	ヒルギ類の個体数が著しく増加していることについて、一般的な動態なのか、また、そのことが何を示しているのか、マングローブの専門家へのヒアリングで確認していただきたい。	マングローブ専門家へのヒアリングを実施し、助言等を踏まえ、整理します。	資料-2 p10 参考資料-4
	ヒルギ類の個体数について、小さな個体が増加しているので、何かしらの生育環境の変化が考えられる。マングローブの個体数が増加したことで底質に影響を与える可能性も含めて、マングローブの専門家にヒアリングしていただきたい。	マングローブ専門家へのヒアリングを実施し、助言等を踏まえ、整理します。	参考資料-4
	ヒルギ類の増減のグラフについて、種別で分けて作成するなど、種ごとの推移を見やすくしていただきたい。	種ごとの推移が分かるよう、種別のグラフを作成します。	資料-2 p10、11
	ヒルギ類の樹高を年齢の指標として用いるのであれば、結果の整理方法について、検討していただきたい。	マングローブ専門家へのヒアリングを実施し、助言等を踏まえ、整理します。	参考資料-4

議事(2) 工事中の環境モニタリング調査結果【R4秋～R5春】の報告について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	記載資料等
陸上動物について	カムリワシの繁殖状況については、一時的な忌避行動ではなく、経年的な繁殖活動の年次変化が重要となるので、継続した調査を実施していただきたい。	鳥類の専門家からの助言等も踏まえ、継続した調査を実施します。	資料-2 p15～16
	イリオモテヤマネコについては、工事現場周辺においてモニタリング中に変化があった場合には、早めに西表野生生物保護センター等と情報を共有し、対策を立てるなどの対応をしていただきたい。	毎月1回のデータ回収の中での確認映像等について、関係機関(委員、環境省)との情報共有を随時、実施します。	-
	ロードキルについては、調査中に確認したロードキル死体を道路から除却することが、二次的ロードキルの対策として有効なので、可能な限り、確認した死体を除却していただきたい。	これまでの調査でも確認した際には、可能な限り、除却しており、今後も実施します。また、工事関係者への環境教育でも周知します。	-
水生生物について	多くの個体を移動することになることから、移動先の個体密度が過多にならないようにしていただきたい。	移動先での個体密度も考慮し、可能な限り広い範囲に移動するようにします。	資料-2 p28
	水生生物の種数と個体数を整理したグラフについて、計数方法が途中で変わった場合、同じ折れ線グラフで整理すると、変化が著しくなって見える場合があります。その場合は、計数方法が変わった旨の注釈を入れ、値と値の折れ線は引かないでいただきたい。	計数方法が変わったことで個体数の推移を比較する際に誤解を生じる恐れがあることから、グラフから個体数を削除します。	資料-2 p29、30、34、

議事(3) 今後のモニタリング調査内容及び工事計画について

区分	指摘/指導・助言内容	対応状況・方針	資料等
工事計画について	今後、影響が大きくなり始めるところ、来年以降の調査が非常に重要になっていくと考えられます。	今後のモニタリング調査計画をもとに、確実なモニタリング調査を実施していきます。	資料-3